

10/11 (日) 14:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2020J3 ■順位表■第20節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

（注：*印は消化試合が1つ少ない）

*1	秋田	47p	+26	31	5	
2	長野	38p	+16	32	16	H●
3	熊本	38p	+12	36	24	HO AO
*4	岐阜	37p	+12	35	23	---
5	相模原	35p	0	25	25	A●
6	鹿児島	33p	+6	33	27	AO
7	鳥取	33p	+4	27	23	AO
8	藤枝	30p	+2	35	33	A●
9	今治	29p	+4	20	16	H△ AO
*10	富山	27p	+5	31	26	AO
11	沼津	23p	-5	23	28	A△ HO
12	G阪23	21p	-6	28	34	HO
13	福島	21p	-8	27	35	AO
14	岩手	20p	-14	18	32	H△
15	YS横浜	19p	-14	26	40	HO
*16	八戸	18p	-10	25	35	AO
17	C阪23	14p	-18	19	37	A●
18	讃岐	13p	-12	20	32	H△

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第12節 vs. ブラウブリッツ秋田

10/14 (水) 19:00【雷雨延期分】

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

today's guest : 鹿児島ユナイテッド

2019 J2 11勝7分24敗 勝ち点40:21位

直近の対決と結果

2020/07/29

J3 - 7節@白波スタ

鹿児島 0-4 岐阜

高崎寛之x3, 中島賢星 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	鹿児島ユナイテッド
2020/10/07 J3 - 20節@夢スタ 今治 2-3 岐阜	2020/10/07 J3 - 20節@A x i s 鳥取 1-3 鹿児島
2020/10/04 J3 - 19節@えがおS 熊本 2-3 岐阜	2020/10/03 J3 - 19節@白波スタ 鹿児島 2-1 藤枝
2020/09/27 J3 - 18節@長良川 岐阜 3-1 沼津	2020/09/27 J3 - 18節@白波スタ 鹿児島 0-3 長野

●いよいよシーズン後半戦に突入した2020年J3リーグ。その初戦、9/27(日)第18節・ホーム沼津戦は、正式にFC岐阜の監督へと就任した仲田監督の初陣。試合は開始早々から#9高崎寛之が2ゴールを決める展開で前半を圧倒する。後半は1点を返され1点差に迫られるが、その後に#8中島賢星の追加点で突き放し、3-1での勝利。そして、落雷によって中止になった8/30(日)第12節・ホーム秋田戦の代替試合が10/14(水)に決まり、10月に上位陣との直接対決を含む5連戦を戦うことになったFC岐阜。その第1戦、10/4(日)第19節は2位・熊本とのアウェイ戦。開始早々から試合は動き、#10川西翔太が先制ゴールを決めるも同点にされ、#15町田ブライトが突き放すが再び追いつかれてしまう。しかし、途中出場した#24栗飯原尚平の豪快なシュートで熊本を三度突き放すと、熊本の猛攻をしのぎ切り、3-2で上位対戦を制した。そして、中2日でのアウェイ連戦となった10/7(水)今治戦。試合は序盤から互いに決定機を迎えるが、今治が2点を奪って前半を終える。しかし岐阜は後半に#2橋本和、#15町田ブライトがゴールを決めて同点に追いつくと、試合終盤に#10川西翔太が決勝点を挙げ、3-2での劇的な逆転勝利。今シーズン初の4連勝を達成することができた。

この3試合も3連勝としたFC岐阜は、勝ち点を37に積み上げ、順位を暫定6位から暫定4位に上げた。熊本を破って2位に浮上した長野との勝ち点差は、わずかに1。首位・秋田との差はまだまだ離れているが、2位との勝ち点差3以内に5位・相模原までが入っているという、J2昇格圏争いは混迷の様相を示してきた。この4連勝で岐阜にも光明が見えてきたが、しかし、我々は2位になった訳ではないし、まだ何も達成していない。シーズン最終節が終了した後で、たとえ得失点差であろうとも、最後に2位以内にいないければ目標は達成できない。そしてこの昇格圏レースは、自分たちが勝ち続けたとしても他のチームが勝ち点を落とさない限り、抜け出すことはできない。だとすれば、ここから先は自分たちの目の前の試合に集中するしかない。自分たちの力を信じて、目の前の1試合を確実に勝ち続けた先に、開けた道が広がっているはずだ。

さて、今節からは10月5連戦の後半、ホームでの3連戦となる。その最初の対戦相手は、鹿児島ユナイテッドFCだ。昨季にJ2初参入を果たしたが21位に終わり、今季は再びJ3に。1年でのJ2復帰を誓いながら、岐阜と同じようにJ3での戦いに思うような結果を出せずにいたが、直近2試合は藤枝と鳥取に競り勝って順位を6位に上げており、岐阜と同様、後半戦に向けて追撃態勢を整えたチームと見るべきだろう。

鹿児島との通算対戦成績は、岐阜の1勝1分1敗・4得点1失点と若干岐阜が優勢だ。前回対戦の7/29(水)第7節・アウェイ戦では#9高崎寛之がハットトリックを決めて4-0で快勝している。しかし、昨季ホーム戦は0-0で終わっているし、昨年のJ2残留争い終盤での0-1の敗戦を忘れる訳にはいかない。勝ち点差4で追ってくるJ2昇格圏争いのライバルを突き放すためにも、今節はホームでも勝利しなくてはならない。

鹿児島の要注目選手には、現在6ゴールの#36米澤令衣と#50馬場賢治を挙げる。特に#50馬場は昨季の岐阜に在籍していた選手、この長良川で好きにさせる訳にはいかない。

そして、今節からの長良川は収容制限が緩和され、これまでの2倍以上、約8,000人が上限となる。コロナ禍で僕らができる応援はまだ限られているが、多くのサポーターでスタジアムを埋めて、5連勝を目指す選手たちの背中を押そう。タオマフ・ゲーフラの掲出(振るのは禁止)や手拍子・拍手で、勝利を掴むために最後まで走り続ける選手たちを支えよう。そして、今節も社会的距離を保ちながら、勝利の歓喜を選手たちと分かち合おう。

(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第18節】岐阜 3-1 沼津

●正式に仲田監督が就任し、シーズン後半戦を戦うことになった岐阜。ここから心機一転、巻き返しを図るためにも下位チーム相手に取りこぼしは許されない。とはいえ、そう簡単にチームが変わるとは…あれ？ #9 高崎寛之と #11 前田遼一の2トップが前線からプレスをかける戦術で、その奪ったボールがゴール前でフリーだった #9 高崎に渡ると、試合開始2分で先制点決めちゃったぞ？ いや、確かに冷静に決めた #9 高崎を褒めるべきなのかもしれないけど、ゴール前の沼津DF 2人が一瞬“お見合い”をして、その隙を逃さなかった、というべきのような…(苦笑)。だけど貴重な先制点には変わりなく。その後も、沼津にボールを持たれながら？あるいは持たせながら？プレスをかけてボールを奪い、カウンターを仕掛ける岐阜。まだ新しい戦術が浸透していないのか、ボールの出し所がずれるけれど、風上に立ったことを活かしつつ、試合を優位にすすめる岐阜。すると前半18分にCKを #9 高崎が押し込んで2点目！その後、何度も沼津に攻め込まれるが、しっかりと守り切って前半終了。僕には、ほとんど危なげのない試合運びに見えて、監督が替わるだけでこうも変わるのかと驚いた。ただし、後半の出来は良くなかった。沼津がボール支配を強めて押し込み、岐阜が受けに回る時間が長く続いた。それは、沼津の戦術変更に対応できなかったのか、あるいは岐阜の戦術理解が不足しているのか、それとも2点差をつけたから“流している”のかは、僕にはよく分からなかったのだけど。もしも、岐阜の選手たちが無理して攻撃をしない選択をしていたのだとしたら、それはそれで、すごいことだなと思う。試合終盤にCKから沼津に1点を返されて(この守備は課題が解消されていないことを思わせる)1点差に詰め寄せられると、相手に決定機をつくられないようにしつつ、少し攻撃へのギアを入れる。すると後半88分、#16 富樫佑太のスルーパスに #8 中島賢星がDFラインを抜け出し、ワンタッチゴールを決めて追加点！これで再び2点差にした岐阜は、この差を守り切って3-1で試合終了。まだまだ問題点はあるものの、価値ある連勝を達成できた。個人的に面白いなと思ったのは、普段はテクニカルエリアには仲田監督が出ずっぱりで指示を出しているけれど、攻撃のセットプレー時には山内コーチが、守備のセットプレー時には板金コーチ(かな？)が素早く交替して指示を出していたところ。コーチ陣も役割分担をして、新しいチーム作りを一刻も早く浸透させようとしているのだなと思わされた。(ささたく)

●前節の富山戦に続いて「勝ちに不思議の勝ちあり。」みたいな試合。前半途中まではどうなることか？と思ったけど、後半もどうなることか、と思った(苦笑)沼津の攻撃練習か？と思うくらい、セカンドボール渡してたよね？スタッツを見るとシュート数は6対16。16本もシュート撃たれて1点で済んだのはラッキーだった。今でも、そう思ってる。といっても、シュートのコースだけは切れてたのか、枠内シュートはほとんど拓也が正面でキャッチしてたような気がする。横っ飛びになってセーブしたのは2本だけかな？試合前から、DF陣とそういう話ができたんなら、それはそれでスゴイという感じ。シュートを撃たせることを前提にした守備だったのか。バーにも助けられたシーンもあったが、最少失点に抑えたのが勝因だろうね。もちろん、流れの中からのヤツ、拓也が横っ飛びになって止めた場面、を決められてたら、試合がどう転ぶのかわからなかった。ナイス・セーブ>拓也。しかし、前田神のシュート。オフサイドかな？アレが認められてたら苦労しなくて済んだのに。まあ、一番オフサイドラインがわかる副審がオフサイドと言ってるんだからしかたないよね。それから、特筆すべきはダメ押しの3点目。富樫の、真ん中のDF 2人の間の、ポッカリ空いたスペースへ狙いすましたスルーパス。それに反応した、いや、先に動きだして、富樫のスルーパスを呼び込んだ賢星のスキルに脱帽だ。オフサイドっぽくも見えたけど、DAZNではぎりぎりオンサイドだと感じた。沼津のDF陣も、アピールはしてたけど抗議してなかったんで、オフサイドじゃないことはわかってたんだろうな。鮮やかなゴールでした。それにしても、沼津というのはメンドクサイ相手だ(苦笑)。とうぶん、やりたくないんで、とっととJ2に戻ろう。(ぐん、)

●仲田暫定体制が仲田新体制になって最初の試合。試合を待つ方々が、なんか、どことなく明るい。こう、なんというか、便秘が解消したというか、結石が出たというか。新監督は、川西をスタメンから外すという結構大胆な策を採ってきたけれど、序盤はずいぶんサッカーがスッキリした。形容は間違ってるかもしれないけど、『余計な脂が落ちた』という風な。彼の縦横無尽な働きは頼りになる時もすごく多いのだけど、どうしても組み立て的に「パーツ以上の存在」になってしまうところがある。そんな中で高崎の2ゴールで早々と2点をリード。しかし、後半なかばになると中盤の運動量が減って攻撃を受け続ける時間が長くなり、CKから1点を返され、その後も苦戦の時間帯。しかし、最後は、富樫のシュートと見せかけての見事なスルーパスを受けた賢星が綺麗に流しこんで勝負あり。キツイ試合ではあったけれど、「新」体制の初戦としては及第点のスタートと言えるだろう。あとは、これからどうなるか、だ。(吉田 Casting)

【第19節】熊本 2-3 岐阜

●いよいよ始まる5連戦。この中には上位2チームとの直接対決も含まれていて、この5連戦の結果如何では今シーズンの行方が決まってしまうかもしれない。その大事な初戦の相手が、大木監督率いる2位(当時)・熊本との“勝ち点6マッチ”。強敵、だけど勝ちたい。勝たなくてはならない。僕の予想では、前回の対戦と同様に、熊本がボール支配を強めてゴールを狙うのに対して岐阜がDFラインを下げて粘り強く守り、隙を突いてカウンター勝負に出るものだと思っていた。ところが、岐阜は前線のプレスで熊本のボールを狙い、ショートカウンター。3試合とも似たような感じだったから、これが“仲田サッカー”の基本ベースといったところなのだろう。すると前半8分、左サイドを切り裂いた #16 富樫佑太の折り返しを、DFとGKの背後から現れた #10 川西翔太がワンタッチゴール！…なんだか、ゴールってこんなに簡単に入るものなのだなあ、と(苦笑)。しかし上位の熊本、岐阜ゴール前の混戦でわずかに空いた隙をねじ込まれ、同点に。しかし岐阜も立て直すと、再びカウンター攻撃で #10 川西翔太のパスを #15 町田ブライトがシュートして2点目！再び熊本を突き放す。その際に実況が『緑の波！』と叫んだように、#10 川西を岐阜の選手が3人も追いついて、こういった厚みのある攻撃が、今までの岐阜には不足していたのだなと、僕は改めて痛感した。後半になると、熊本はさらにボール支配率を高め、そんな相手に1点リードしたまま時間が進んでゆく。だけど、岐阜ゴール前の混戦で押し込まれ、残り15分で再び同点に。このまま逆転されてしまうのか…と浮かんできた僕の不安を吹き飛ばしたのは #24 栗飯原尚平！後半85分、右サイドからカットインして左足を振り抜いた“栗飯原キャノン”は、相手GKの手を弾き飛ばしてゴール！今季の #24 栗飯原は左サイドで起用されることが多かったけれど、途中交代で右サイドに配置した仲田采配がズバリ的中した感じだ。残り5分で1点差、あとはしっかり時間を使いながら守備を…とはならず、アディショナルタイムに熊本のエースにスルーパスを通され、ゴール前でGK #31 松本拓也と1対1になった時は、心臓止まるかと思いましたが(苦笑)。#31 松本のビッグセーブで文字通りの命拾い。なんとか守り切って、試合終了。試合中は心臓に悪い展開だったけれど、終わってみれば、価値のある勝ち点3、シビれっぱなしの試合内容、そして、大木・熊本に今季ダブル(2勝)。DAZN 観戦だった僕でも最高に嬉しかったのだから、この試合から熊本ではアウェイ席が解禁され、遠征した岐阜サポにとっては最高の結果だったろう。あー、ホント羨ましい。もちろん、失点シーンを例に挙げるまでもなく、岐阜には課題も数多く残っている。だけど、今は結果が何よりも重要だ。それに、勝つことは何よりの特効薬だ。仲田監督の誕生日を祝う今日の勝利が、今後のチームの快進撃をも祝福する勝利になればと、そんなことを僕は強く願った。(ささたく)

●いや、スゴイ試合だった。素晴らしい勝利だった。こういう試合が見たかった。もし、この試合の結果が敗戦だったとしても、十分に満足できる試合だった。現地にいたら、ためらうことなく感謝の言葉……、あ、言葉はダメか(笑)、カラダを目いっぱい使って、ありがとう！と伝えていたのは間違いない。心の底からこういう試合が見たかったんだ。ホント、ありがとう！

しかし、前回の長良川と同様、相手にボール持たせていくのかと思ったら、さにあらず。まさか、まさかの真つ向勝負。前線からのハイプレスで挑んでいくとは思わなかった。前半途中から、これで試合終了まで保つのか、いや、保つハズがない、とハラハラ。だが、熊本もウチ以上に失速すると読んでの戦術だとしたら、かなりの策士だ、仲田さん。さすが、大木さんの下でプレーしてただけのことはある(笑)だけど、ハードな5連戦の初戦でコレとは鬼でもあるな。

双方合わせて5点。いずれもが素晴らしいゴールだった。特筆したいのは、ウチの先制点と決勝点。どちらも起点がスローイン。相手に渡すのが不文律とすら思っていたウチのスローインが得点につながるとは……。これからも、ひとつのセット・プレーとして、有効に活用していただきたい。やれば出来るやん。

それから、2点目のブライト。よくぞ、走り切ってくれました。ウチのロング・カウンターって、いつ以来？あんなに、長駆してのゴールはアウェイ・甲府戦での悠斗以来か？とにかく、ブライトの疾走は強力な武器だね。カンタンに当たり負けしないし、なんか惚れてまうやろ～。決勝ゴールのアイちゃんの左といい、唯一無二なタレントが増えてきたのは嬉しい話。これからはターン・オーバーは必至だけど、どんなスタメンになるのか、考えるだけでワクワクしてくる。

それにしても、熊本にダブル、か。相手の指揮官がアノ方だけに、感慨もひとしお、だ。でも、勝ち点6に変わりはない。他に負けてたら意味がない。次節以降もやること、狙いは決まってる。厳しいスケジュールだけどやり切ってほしい。(ぐん)

●やっぱり「内心、思うところ」ってのはあるもので。今季の開幕前に希望し、七夕飾りでも短冊に書いて願ったのは『熊本より上(の順位)』。別に、大木武氏に対して『恨み』があるわけじゃ……正直に言うともちょっとはあるが(苦笑)、恨むなら相手は彼と契約を結んだ岐阜のフロントなわけだし、しかしそうとはわかっていても、やっぱり「譲れないもの」というのがある。世間では、それを『意地』と呼ぶ。まあ、ゼムノビッチ時代の戦況により、『熊本より上(の順位)』は『熊本に2勝』に方針変換となったのだけど(苦笑)。

岐阜ホーム戦の1-0勝利を受けての第2戦は、「手に汗握る」という表現が相応しい好ゲームとなった。相手ゴール前で忍者のごとく背後から飛び出して先制点を決めた川西のゴールも、高速戦車のごとき加速で飛び出してカウンターを決めたブライトのゴールもよかったけれど、やはり印象に残ったのは決勝点。

高崎はハンドボールのセンターFWのようにカラダを張ってしっかりポストプレーをこなしてあいちゃんに出し、そこにヤナギ王子が高速でエリアに突っ込んで相手DFを3枚も引っ張ってあいちゃんのマークを甘くさせ、そしてあいちゃんは守備が薄くなったゾーンに持ちこんで得意のレフティ・キャノン砲をぶっ放す。この『岐大通』でも何度か引用したかもしれない、ぼくの好きなアニメのセリフをまた引用すると「チームプレーという都合のいい言い訳ではない、スタンドプレーから生じるチームワーク」。間違いなく、今季のゼムノビッチ体制では観ることの出来なかったゴール。ぼくは岩手戦の後だけに「これからは目の前の試合の勝った/負けたを愉しむ」と宣言したけれど、「これは……もしかしたら『届く』かも『熊本より上(の順位)』に、なれるかも？」と思わせてくれる、そんなゴールだった。(吉田铸造)

【第20節】今治 2-3 岐阜

●中2日でのアウェイ連戦の岐阜。対する今治は中4日。コンディショナル的にはホーム今治が有利な状況。それでも、今日も勝たなければならない重要な試合。そしてこの試合も前線からプレスをかける戦術で臨む岐阜は、試合開始直後に#22 柳澤亘のミドルで弾かれたボールを#24 栗飯原尚平が押し込んだ…に見えたが、

ゴールは認められず。そして逆に、岐阜ゴール前での混戦でダイブした(と僕には見えた)今治のプレーはPK獲得…。しかし、こういったことも含めて『これがJ3のサッカーだ』。ただ、ここで岐阜の選手たちが執拗に抗議せず、次のプレーに集中する様に僕はチームとしての成長を感じたし、これがGK #31 松本拓也のPKストップを引き寄せたのではないかと思う。しかし、その後のFKでは、ファーサイドの守備対応にまだ課題が残っているらしく、開いた隙を突かれて失点してしまう。その後両チームとも決定機をつくるが、その数は今治の方が上。すると今度は岐阜のDFラインを破られて2失点目。ちょっとチグハグなまま、前半を終えた岐阜。2点差という大きなハンデを後半に取り返せるのか…。不安な僕は、あの有名な格言『2-0は危険なスコア』の奥深さを、良い意味であらためて噛みしめることになるとは思ってもいなかった。だって今までの僕の格言は『3点差をつけても油断するな』だったんだもの(苦笑)。後半を選手交代とシステム変更で臨んだ岐阜は、直後のCKのこぼれ球を#2 橋本和が押し込んで1点を返す。その後は再び両チームとも決定機をつくりつつ、両GKのビッグセーブ連発でゴールが生まれない。緊張感のある時間が続くと、後半80分、再びCKでの混戦で#15 町田ブライトが押し込んで同点！そしてそして後半88分、今度は#15 ブライトがゴール前に放ったクロスニアで#4 甲斐健太郎がそらし、ファーで待っていた#10 川西翔太が落ち着いて決めて殊勲の逆転ゴール！決めた#10 川西も素晴らしいけど、ニアの#4 甲斐も素晴らしい。2点目の混戦時も、#15 ブライトの前にヘディングで競り勝つてるのは#4 甲斐だと思ふ。これも、選手交代で#4 甲斐が右SBに入っていたから。ここでも仲田監督の采配ズバリですね！

前半に2失点していることから、まだ岐阜には、特に守備面では課題が多く、解決されていない。だけど、それでも勝つのだというチーム全体の強い意志が、この逆転劇を引き起こしたのだと思う。そして、その強い意志は、2失点目に選手たちが自発的に円陣を組んでいたことから感じられた。また、今回はじめて気がついたのは、仲田監督が右耳にレシーバーをつけていること。通信機器の使用は2018年から認められているけれど、今までの岐阜では、少なくとも監督はつけていなかったような…。そういった点で戦術の修正が容易にできるようになったのも、今回の勝利の一因ではないだろうか。

そして、これで4連勝！ようやく、少しだけ昇格圏が見えてきた。今後も毎試合、この昇格圏レースに生き残るかどうかといったヒリヒリする状況が続くと思うけれど、それでも、最後には笑ってシーズンを終わられるよう、勝ち続けたい。(ささたく)

●「2-0はキケンなスコア。」この言葉をソチラ側、逆転したサイドから使う日がこよよとは……。2点差を逆転と言えば、アウェイ・ヤマハでの磐田戦とか、雨の長良川での京都戦とかが思い浮かぶけど、いずれも前半のうちに1点返してたよね？前半0-2からの後半だけで逆転したのは、この試合が初めてのような気がする。それにしても、2点目を取られた後の円陣には驚いた。ここから逆転するにはどうしたらいいか？いや、フツに逆転して岐阜に帰るよ、そのためにはどうしたらいいかわかってるだろ？と確認しあっているような雰囲気すらあった。勝ったから言えるんだという指摘は甘んじて受けるが、DAZNの映像からは至って冷静な、落ち着きはらったイメージが伝わってきたよ。

それに、誤解を恐れずにぶっちゃけると、前半が終わった時に感じたのは「後半、先に点を取れば勝てる。」ということ。前半を見終えて、失礼ながら「これでリーグ2番目に失点が少ないの？」と思ってしまった。前半は、たまたま今治が点を決めただけで、ウチにも十分チャンスはあった。正直、開幕節の長良川で戦った時の方が緊迫感があったような気さえる。あの時の今治と同じチームなのか？とも思ったということはナイショ。

なので、ワタルさんが決めた時は「ヨシ、これでイける！」という感じ。それにしても、相手GKが弾いたボールを冷静にゴールネットの天井めがけて蹴りこんだのは、さすがというほかはない。まさに、仕事人というイメージ。冷静な、心憎いプレーだったね。この場面でのイヨハのフリックには0.4点くらい差し上げたい。イイ仕事をしてくれました。それから、同点&決勝弾を演出したカイケンにも花丸を贈りたい。CBから右SBへのポジションチェンジ、前線への攻撃参加。そして、2つのアシスト(だよ？)。

【編集人から一言】 非公式参考記録……ですが

●2001年から活動を開始したFC岐阜は、岐阜県サッカー協会管轄の岐阜県リーグ1部からスタート。地区リーグに落ちることなく活動しているため、県協会発行の「サッカー要覧」等にすべての公式戦の試合結果（スコア）が残っていて、編集人は個人的興味からそれらの記録を収集しています。あくまで手集計なので、ミスもあるかと思うので参考記録としてほしい（クラブにも確認してもらっていません。もっとも、クラブにも創設当初の記録はおそらく残っていないでしょう）のですが、前節のアウェー・FC今治戦が公式戦の706試合め、総ゴール数は1,013となっています。

集計ミスや計算ミスがなければ、節目の700試合めは9/9のアウェー・福島ユナイテッド戦。そして節目の1,000ゴールめは、9/13のアウェー・ヴァンラーレ八戸戦での、橋本和選手の「あのヒール・ループシュートのゴール」となります。参考までに。（編集人：吉田铸造）

まさに、獅子奮迅の活躍だった。願わくば、最終節までカードをもらわないようにしていただきたい。3枚までならOKです（ダメです）。

結局、キックオフ直後のチャンスを決め切れなかった方が失点を重ねた試合。前半のウチの栗飯原しかり、後半の今治しかり。まあ、アイちゃんのはしっかり押し込んでいたような気がする。ただ、副審の位置からは確認できなかった、ということだろう（苦笑）。それより、王子の目の覚めるような左足ボレー。そんなん隠してたんだ。遠慮せず、どんどん撃ってってくださいね。期待しています。しかし、ミッドウィークの、それも午後1時キックオフなんていうディープな味わい。これがJ3。かなり、山間の高い場所にあるように見えたスタジアム。そこからでも海が眺められるのは、さすが臨海の街・今治だね。現地で、ソウル・フードの焼豚玉子飯を食べたかった。返す返すも、この試合を現地観戦できなかったのが残念です。

しかし、喜んでいられるのも今夜まで。週末には鹿児島、そして一週間後には首位・秋田との大一番が控えています。道は未だ半ば。非常にタイトなスケジュールですが、それでも期待せずには、祈らずにはいられない。勝ってくれ、と。まずは、鹿児島にダブルを決めてやりましょう！

あ、ただし、先制された場面。あんなのは、もうカンベンな？二度とやらないように。約束だよ？それから、大きな声では言わないけれど、後半のATが3分だったのは帳尻合わせだったと思うよ、たぶん（笑）。通常は飲水タイムだけで2分は取ってるからね。何の帳尻合わせだと思ったのかは書かないでおきます。（ぐん、）

●アウェー席の発売が順次スタート。熊本 vs 岐阜はえがお健康スタジアムで拍手と手拍子を送る岐阜サポの姿があった。しかし、アウェー席チケットは10月中には発売を開始すればいいので、水曜の午後1時開始ではそもそもやって来れる岐阜サポも少ないだろうから、その試合をアウェー解禁のテスト運用試合にしようとしてFC今治が考えるのも当然のこと。もし、ぼくが担当でもそうしたでしょう（苦笑）。かくして、この試合はアウェー席なし。もし予想が外れてアウェー解禁になった時に慌てないように（笑）と確保しておいた有給休暇を会社に返納するのも面白くないので、そのまま1泊2日で旅に出してしまい、試合は長良川と似た清流・錦川沿いの、これまた長良川鉄道に似た錦川鉄道に乗りながら、SNS情報を頼りに（トンネルが多いのでDAZN観戦には向かないのです）。

「(中2日で)疲れている、動けてない」など、ネガティブなコメントが多かった前半。リモートマッチだった開幕戦、今治の執拗かつ効果的なプレスがスコアレス・ドローを生んだことを思い出し、さすがにこの試合はダメか、切り替えてホーム3連戦に集中して……と思ったよ。ええ、思いましたさ（苦笑）。

すると後半に鮮やかに3得点。試合後に視たハイライト映像では、1点目に結びついたCK、決勝点の3点目に結びついたブライートのクロス、どちらもニアで一度合わせることでファーがフリーになるという今治DFの弱点を見事についたもの。特に3点目は右SBに移った甲斐がスルスルっと上がったところにブライートのクロス、今治DFが大慌てで2人をつけに行くが遅く、ファーで川西が綺麗にフリー。こんなゴール、奪えるんだね。

かくして、旅先での酒量がさらに増えてしまうという、嬉しいような嬉しいような、いや嬉しいに決まってんじゃんという素晴らしい旅になりました。でも、本心は、やっぱり今治で観戦したかったんだ。ぐすん。（吉田铸造）